

## 【放送教育研究発表】

# 生徒の自学自習を支える効果的な放送教育の実践

栃木県立学悠館高等学校

## I 学悠館高等学校について

### 1 沿革

- 平成16年12月27日 「栃木県立学悠館高等学校」設置条例の制定  
平成17年 1月 1日 「栃木県立学悠館高等学校」設置条例の施行  
生徒定員：通信制課程（普通科400名）  
募集定員：定時制課程（普通科200名・商業科40名）  
平成17年 1月31日 校舎竣工  
平成17年 4月 7日 開校式・1期生の入学式  
平成17年 4月28日 開校記念式典  
平成18年 3月 5日 第1回卒業式  
平成24年 4月 1日 生徒定員を450名に変更  
平成26年11月21日 開校10周年記念式典挙

### 2 教育目標等

- (1) 校訓『出藍』  
(2) 生徒指標『希望 自立 共生』  
(3) 教育目標『心豊かに、逞しく、人生を生き抜く力を育む』

### 3 教職員等（令和4年度）

校長	教頭	教諭・常勤講師	非常勤講師	事務	合計
1	1	11	14	4	31

（名）

校長は通信制と併設の定時制との兼務。

事務は事務長が定時制との兼務となり、事務職・公仕が専任、PTA職員が兼務となる。

### 4 生徒数の推移

平成令和 年度	生徒 在籍数	受講 手続数	入学者数			卒業 者数	
			一般	編入	転入		
H27年	275	208	70	33	19	38	41
H28年	284	245	105	45	14	46	55
H29年	291	254	108	55	16	37	59
H30年	286	244	96	35	14	47	55
H31年	339	297	146	72	22	52	61
R02年	381	326	144	73	15	56	54
R03年	425	364	142	50	18	74	78
R04年	442	382	149	75	20	54	98

入学者選抜は、一般・編入・転入とも3月期のみ実施。

特別な事情がある場合のみ、後期転入学を認めている。

入学者選抜は総在籍数450名（R04年度）内で募集している。

## 5 学習状況（単位修得率）

年 度	受講者数	後期 継続者数	単位 修得者数	単位修得 率(%)	1科目以上 修得者(%)
H27年	1890	1285	1148	60.7	75.6
H28年	2343	1528	1328	56.7	70.2
H29年	2252	1549	1320	58.6	66.1
H30年	2306	1541	1350	58.5	69.8
H31年	2745	1903	1627	59.3	75.3
R02年	3019	2164	1883	62.4	75.5
R03年	3376	2583	2220	65.8	76.1
R04年	3707	2754	2417	65.2	77.5

受講者数・後期継続者数・単位修得者数は、各科目の延べ数である。

すべて退学者・転出者を含んだ数である。

## 6 進路状況

年 度	卒業生数	進学			就 職	その他
		大学	短大	専門学校		
H27年	41	3		7	3	28
H28年	55	4	3	7	11	30
H29年	59	4	2	6	10	37
H30年	55	6	2	11	9	27
H31年	61	5		10	10	36
R02年	54	9	2	5	10	28
R03年	78	12	1	14	9	42
R04年	98	9	2	23	14	50

## 7 本校の概要

本校は平成17年に、通信制と定時制を併設した栃木県初のフレックススクールとして開校した。生徒の募集は全県区となっているが、栃木県の南部に位置しているため、通いやすい県南地区の生徒がほとんどである。

平成17年以前は栃木県内の通信制高校は県都である宇都宮市に1校が設置されていたが、本校の開校に合わせて生徒定員の分割が行われ、本校定員は400名となった。その後、生徒数の増加が見込まれた平成24年度に定員が450名と変更された。

併設の定時制は県南地区の4校を統合することとなり、開校翌年の平成18年4月に統合が実施された。

現在の在籍生徒の多くが、小中学校での不登校や他の高等学校の退学を経験し、基礎学力に不安を抱えている。そのため、基礎学力養成を目指した「学びの時間」を実施したり、報告課題作成を支援する「レポート作成支援の時間」を面接指導日に設けたりしている。併せて大学への進学を希望する生徒も増加しているため、学力向上のための「進路講座」を設けている。

さらに自宅での学習を支援し、学びに対する意欲を喚起するために、平成25年度からは、NHK高校講座の積極的利用を始め、主に面接指導でNHK高校講座を取り入れた指導を行い、報告課題に視聴して学習する設問を導入したりしてきた。面接指導の代替措置は開校以来行ってきたが、コロナウィルス感染対策のため学校が休校になったときに、NHK高校講座を視聴させることで自宅学習を進めることができ、学習継続のための生徒の不安を解消することもできた。

## II 学習支援に放送教育を取り入れる理由

本校は、週1回のスクーリングですら出席しない（できない）、自学自習もほとんどしない（できない）生徒が少なくなく、単位修得率の低迷が大きな問題となっていた。このような生徒に少しでも「分かる」喜びや「学ぶ」楽しさを体感させ、自ら学ぶ態度を育てることができたならとを感じる中で自宅学習にNHK高校講座を利用するよう、度々呼びかけてきたが、実際には年度末に面接指導の出席時数不足を補うために利用する生徒がほとんどであった。

NHK高校講座は年々その内容も充実し、デジタル時代にふさわしい新しい学習環境を提供してくれており、通信制課程の生徒にとって利用価値はかなり高いものとなっている。これを単なる学習の補助的手段とするのではなく、「生徒自身のより豊かな学びの実現」を目指して一歩踏み出した活用を身につけさせたいという思いが、放送教育を取り入れる大きな理由である。

ではどうすれば生徒の利用を促進し、期待される学習効果につなげられるかを検討した結果、平成25年度に、生徒に課す報告課題（レポート）の中に、NHK高校講座の指定の番組を視聴して解答するような設問を組み込むという案が浮上した。実際に始めてみると、生徒のNHK高校講座の利用率が格段に上がり、学習意欲の向上等もみられるようになり、面接指導での活用、学びの時間での活用等へと広がっていった。

## III 当初の取り組み

### 1 基本方針

- (1) 放送教育の充実により、いつでも、どこでも、何度でも、誰もが同じ学習支援を受けられるという放送教育の理念のもと、「生徒自身のより豊かな学びの実現」を目的とする。
- (2) 本校独自の番組を制作し配信することは事実上困難なので、通信制高校生徒の為に放送されているNHK高校講座（テレビ・ラジオ・インターネット）を視聴させることで、放送教育の実践に代えていくこととする。
- (3) 放送視聴は科目を限定して必須扱いとする。

### 2 取り組み方

- (1) NHK高校講座の放送視聴を必須とする科目は、常勤教員が担当する科目に限定する。
- (2) 従来の放送視聴票のような扱いではなく、各科目のすべての報告課題の中に、番組を視聴しなければ答えられない設問を組み込み、評価できるようにする。
- (3) 家庭でテレビ・ラジオ・インターネットの利用ができない生徒には、スクーリング日の放課後に「レポート作成支援時間」としてPC教室を開放し、自由に視聴できるようにする。

### 3 検討すべき事項

- (1) 報告課題内の放送視聴による設問の配点はどの程度で、全科目そろえる必要があるか。
- (2) 実践の検証を、いつ、どのように行うか。（生徒アンケート？教員アンケート？）
- (3) スクーリング日放課後のPC教室の管理はどのようにするか。当番制にするか。火曜日の利用施設はどう確保するか。
- (4) 実施にあたり、どのような係分担が必要か。
- (5) 保護者への通知は必要か。
- (6) 定期試験に放送視聴の内容を盛り込むか。
- (7) 教育課程の移行期が重なり、新番組は事前に視聴できない、放送予定日が未確定等の科目はどうするか。

### 4 実施後のアンケートの結果

- (1) 生徒のアンケートから

### 【長所】

- 大変分かりやすくレポート作成に役立ちました。
- 自分のタイミングで動画を見れた。
- 短時間の間で要点がまとめられていて分かりやすい。
- お笑い芸人さんが出ていて見やすかった。
- 放送視聴は、短くまとめられていて見ていてとてもわかりやすかった。
- ネットでは動画に加えて文章や図が見ることが出来るので分かりやすかった。
- 教科書は写真だけだが、動画なので理解しやすかった。
- 繰り返し見られるので良かった。

### 【短所】

- 視聴してなければいけないのが、レポート作成をしづらくさせている。
- スマホでライブラリが視聴できなかった。
- 放送内容に対して、問題が分かりづらかった。
- PCやスマホがない人には不便だと思う。
- レポートに取り組む時間が長くなり大変でした。
- 視聴問題はとても大変でした。ない方がよい。
- 教科書を見て答えられるのでない方がよい。

## (2) 教員アンケートから

### 【良かった点】

- 読み方が実際に耳に入ってくるということで、役に立った。
- 「放送視聴を通して理解が深まった」という生徒も散見される。
- 放送による画像・動画により、興味・関心を高め、生徒の理解を促すことができた。
- 高校講座の優れた講師の話をお聴くことにより、多角的な視点が持てるようになった。
- 生徒たちに楽しく学べる機会を提供できた。
- 教科書で取り上げられていること以外のことを学習できた
- 放送視聴しないと解答できないため、必然的に学習する時間が確保できるようになった。

### 【悪かった点】

- スクーリングと放送の日程が合わず、見せたい番組を設問に設定できない場合が多い。
- 学習意欲の低い受講生には、放送視聴をせずに解答する傾向が見うけられた。
- 放送視聴できるPC・スマートフォン・録画機を持っている生徒と持っていない生徒の間で、様々な差が出てしまうことがかわいそうだった。
- 番組内容が基礎基本中心のため、学力の高い受講生の中には退屈に感じたものもいた。

## 6 課題

- (1) 学習意欲の乏しい生徒は放送視聴をあまり好まない傾向があり、番組をよく見ないで（全く見ないで）レポートに取り組むため、その良さになかなか気づけない。
- (2) レポートに視聴問題が設けられた科目しか番組を視聴しない、またレポートに視聴問題が設けられた回しか番組を視聴しない（主体的に放送視聴をしていない）生徒が少なくない。
- (3) 放送視聴の良さは分かっているが、自宅に録画（録音）機材やインターネット環境が整っていないため、放送視聴がしづらい生徒がいる。
- (4) 学校のPC教室を開放しているが、不登校の生徒や集団で活動できない生徒には、利用しにくい状況である。

## IV 充実期

### 1 新たな取り組み

- (1) 常勤教員は面接指導の中で生徒にNHK高校講座を視聴させる。視聴問題が入った回のレポートを手元に準備させ、番組の見方や視聴問題の解き方を指導する。（以下、視聴授業）
  - ①各科目で年1回以上視聴授業を実施する。
  - ②各科目の視聴授業の実施日は学習予定表に明記し、生徒に周知する。
  - ③使用教室（普通教室、視聴覚室、理科教室など）の調整、使用機器の準備は係が行う。
  - ④PC教室の場合は一斉指導だけでなく、個別に視聴させることもできるので、事前に使用法の研修会を開く。
- (2) すべての科目に、視聴問題を導入する。
  - ①視聴問題は、年間の報告課題数の1/2程度とする。（従来通り）
  - ②報告課題が年間12回の科目は最低6回（他：8回の科目は最低4回）  
6回の科目は最低3回（他：3回の科目は最低2回）  
ただし、NHK高校講座に番組がない科目（別表の網掛け）は除く。
  - ③視聴問題の配点は、100点満点中、10点以上20点以内とする。（従来通り）
- (4) 常勤教員は上記①の実践と平行し、NHK高校講座の収録現場を見学し情報交換を行う。
  - ①前期と後期の2回に分けて実施し、原則常勤教員は全員が見学に参加することとする。
  - ②可能な範囲で非常勤教員も見学できるように計画を進める。
- (5) 「学びの時間」にNHK高校講座の「ベーシック国／数／英」を活用する。
  - ①従来のプリント学習に加え、生徒の希望に応じてNHK高校講座を視聴させる。
  - ②使用する場合、教室を普通教室からPC教室に変更。
- (6) 報告課題の視聴問題に番組にリンクするQRコードを印刷しておく。
  - ①QRコードは係が一括して作成しておく。
  - ②番組が改編される時は、ライブラリーを利用する。
- (7) 学習予定表に視聴すべき番組を表記しておく
- (8) その他
  - ①面接指導日の放課後、希望する生徒にPC教室を利用させる。管理はパソコン部顧問にお願いする。
  - ②保護者に対しては、引き続き協力依頼の趣旨で、案内通知を送付する。
  - ③定期試験に放送視聴の内容を盛り込むかどうかは、科目担当者に一任する。
  - ④可能であれば、放送教育等の先進校を視察する。

### 2 面接指導に放送視聴を取り入れたことについての教員の意見

- 生徒にとっては目先が変わって楽しかったようだ。
- 数を多くすると、授業としての説明する時間が少なくなってしまう。
- 生徒は「分かりやすい」「面白い」という反応だった。
- 映像で見せられるのは、写真より具体的にイメージしやすく、とても良い。
- 生徒が興味関心を持って授業に取り組んだことで「レポート内容がよく分かった」と生徒の感想があった。また、授業で指導する幅が広がったのが良かった。
- 面接指導内で報告課題の一部を指導したところ、生徒から「やり方が分かった」「分かりやすかった」との意見をもらった。次年度は早い段階で取り入れたい。
- どの番組の、どの部分を見せるかを検討するのに時間がかかった。特に教科書で取り扱う範囲に該当する番組が多数あると、ピックアップするのが難しい。
- 理科などで、自然現象の具体的なイメージを生徒に持ってもらうのに役立ったと思います。
- iPhoneを使用して面接指導を行ったが、巻き戻しをするのに苦労した。今後、教室の重複で視聴覚機器が使えずiPhoneを代替で使うときの通信料が気になる。
- パソコンだけでは音の大きさに限界がある。スピーカーがあるとよい。

- 面接指導に合わせた教材研究（プロジェクターの使い方、止めて説明する箇所）等、番組に合わせたワークシートと補助プリントの作成に苦労した。
- 視聴授業は生徒からは好評であったが、機材の準備に手間取った。

### 3 放送を視聴する報告課題を取り入れたことについての教員の意見

- 情報の取り入れには慣れている生徒が多く、指導者側が思っていたよりもスムーズに、かつその解答も想像していたよりも深く考えられていて楽しく添削できた。
- 番組の内容から問題をつくることに苦労した。教科書に載っているだけでなく、番組で扱っている独自のことも問題にするようにしました。
- 一問一答にならないように、現象の説明を記述させる問題作りに苦労した。
- NHK 高校講座を普段の学習で活用するように生徒にアナウンスすれば良かったと思う。
- 報告課題の視聴問題に答えるため放送を見るのではなく、普段の学習で理解するための手助けとして積極的に番組を活用してほしいと思った。
- ラジオ放送の場合、ラジオの所持の有無に危惧したが、インターネットでも視聴できたらしく「ラジオが無い」ために課題ができないという問題は起こらなかった。
- 放送内容を書き写せば答えられる課題にしてしまったので、放送内容を聞いた上で自分の考えなども入れて答えられる報告課題にしたい。
- 基本的には教科書と同じ内容なので、違いを出すのが難しいと感じた。
- 映像からの問題は太筋から外れる場合もあるので、問題作成に注意が必要。
- 自宅で放送視聴ができない環境の生徒がおり、課題の解答ができないことがあった。
- 教科書では細かく説明されない身近な話題が放送され、生徒にとっては良かったと思う。
- 教科書に載っていない部分を探すのに苦労した。
- 視聴する部分を指示しているのに、生徒にとって分かりにくいということがあった。
- 面接指導で視聴したことで、報告課題の理解を深めることができた。
- ラジオ番組は教科書に書いてあることを読み上げたり、教科書の問題を解かせたりするので、番組を視聴しなければ解くことができない問題を作るのは難しかった。
- 問題作りには苦労したが、放送を見ないと分からない問題にしたので、生徒によく放送を見せることができた。教科書にはない視点から問題を考えさせることができた。
- ラジオでなく、映像（テレビ）でないと分からないという声も聞こえた。

### 4 視察やNHK 高校講座収録現場の見学

#### (1) 先進校の視察

先進校は放送教育に限定せずに通信教育の先輩である学校を選んで訪問した。幸いに出張が許されたが、全員が訪問して勉強するということから関東圏を中心とした。通信制が抱える問題や先進的な取り組みを知ることができ、そこから今回の放送教育につながる情報を得ることができた。

#### (2) 教員のNHK 高校講座収録現場の見学

通信制に通う生徒のために作られている「NHK 高校講座」であるが、その番組がどのように制作されているのかは知らないままであった。今後活用を進める上で、制作現場を知ることが教員側の意識向上にもつながり、生徒へ活用を勧めやすくなるのではないかとこの発想から収録の見学が計画された。実際に見学を計画すると、制作するエデュケーショナル様のご好意で制作プロデューサーと教員との意見交換を行うことができた。



#### (3) 生徒のNHK 高校講座収録現場の見学

教員だけでなく、生徒に見学させることで放送視聴への理解が進み、活用する意識の向上に繋がることを期待し、生徒の見学の機会も設けることとした。前期と後期に1回ずつ計画し、毎回10名程度の生徒が参加した。

参加した生徒からは、制作現場の雰囲気を知ることによってNHK 高校講座をもっと視聴しよう

とする意識が高まったという意見を聞く事ができた。

#### (4) 番組委員会への教員の参加

コロナウィルス感染防止のため、番組の収録現場見学ができなくなってしまったため、令和3年度は番組を作成するための委員会に参加をさせていただいた。参加した科目名は「公共」「現代の国語」「英語コミュニケーションⅠ」の3科目であった。リモートではあるが参加することで番組の作成経過が理解できるため、放送教育研究のためのアイデアが浮かぶのではないかとの期待があった。

通信制の教員が参加することで、生徒の状況も伝えられるし、放送研究を進める中での課題をNHKエデュケーショナルの方や講師の先生方と共有できた。

### 5 学習に活用した生徒の意見から

- まちがいやすいポイントや、例題など、1つ1つ説明してくれていたのもとても分かりやすかった。
- 言葉だけだと、流れていってしまい、どう書けばいいのか分からなくなるので映像があった方がよい。
- ただ普通に説明を入れるだけでなく、ちょっとおもしろい所を入れてたのが、とても楽しく覚えられました。
- スクリーニングだけでは深く理解できなかったところを、自宅で繰り返し見て学べた良いと思う。わかりやすくておもしろい！
- 自由な時間に視聴できるので良かった。
- 番組によって雰囲気が違うので、受講していない科目の番組もつい見てしまった。
- 高校講座をやって難しい問題などが分かりやすくなったりして良かった。
- 日本史の視聴授業はとても分かりやすく、日本史について深く知ることができた。
- 理解しやすい科目、英語等は学習活動に役立ちました。
- 現代文がとても分かりやすかったです。科学と人間生活も分かりやすかったです。書道Ⅰも分かりやすかったです。
- 教科書だけでは少し分かりにくいもの（実験など）やコミュニケーション英語Ⅰにおける会話のポイントなどを知ることができ、学習をより発展させることができた。
- レポートの提出期限までに放送・配信しない回があります。
- 数学Ⅰが難し過ぎてどうにもなりませんでした。
- 「どこを見れば何が分かるか」をもう少し明確に記載してほしい。
- 全体的に無駄な話が多くうんざりする。学習のために視聴しているので、バラエティ番組のようなトークは不要。
- ラジオが多かったため視聴しにくかった。スマホの容量が少なく困ってしまった。
- 文と画像が見られる方が分かりやすかった。
- 時間が合わなかったのでネットでしか見なかった。
- 面倒くさい。聞き取りにくい。
- 何回かリピートした時に音声がおかしくなって大変でした。
- iPhoneではなかなか再生できず困った。（先日は1時間近く待ってもダメだった。）
- スマホではめんどくさい。

## V 現在の状況

### 1 スマホの保有率 (%)

H29年	H30年	H31年	R02年	R03年	R04年
85.4	87.1	86.5	92.9	92.9	84.2

### 2 パソコンの保有率(タブレット含む) (%)

H29年	H30年	H31年	R02年	R03年	R04年
47.3	48.9	40.5	40.4	57.2	53.0

### 3 自宅用Wi-Fi保有率 (%)

R03年	R04年
91.9	95.0

スマホの保有率は90%を超えていると思われる。自宅でのWi-Fi保有率が95%に達していることが驚きであるが、自宅以外でもWi-Fiを利用する生徒が多いため「何処でも視聴できる」「何時でも視聴できる」など場所や時間に縛られない回答が多い理由とも考えられる。

### 4 NHK高校講座の活用

#### (1) 視聴方法(複数回答あり) (%)

視聴方法	H30年	H31年	R03年	R04年
Eテレ	6.5	7.3	7.0	11.5
ラジオ	4.0	4.8	4.1	6.0
パソコン	23.4	21.2	14.8	14.3
スマホ	80.6	86.7	84.3	88.7
タブレット	10.5	9.1	15.2	10.4

#### (2) 勉強に役立ったか (%)

役立ったか	H30年	H31年	R03年	R04年
とても役立った	25.0	29.1	24.7	27.5
役立った	68.6	67.3	66.7	63.7
役立たなかった	5.6	1.2	5.3	6.6
全く役立たなかった	0.8	2.4	3.3	2.2

#### (3) 困ったことはあったか(複数回答あり) (%)

困った理由	H30年	H31年	R03年	R04年
なかった	75.8	73.2	78.2	78.6
番組の放送時間	6.5	3.7	2.9	1.6
視聴する場所	0.8	3.7	0	1.1
視聴する機器	2.4	0	0.4	1.6
番組を見つけづらい	5.6	9.1	12.8	12.1
内容が難しい	6.5	6.7	5.3	2.7
その他	6.5	9.1	4.9	7.1

NHK高校講座の視聴方法はスマホを利用する生徒が多いが、Wi-Fi環境が整っているようなので、接続料金等の不安が無いことも要因の一つと考えられる。近年はパソコンを使用するよりもタブレットを利用するのも特徴の一つであろう。

勉強に役立っていると回答する生徒も多く、視聴して勉強を進める本校の方式が十分に浸透していることの現れとも思われるが、番組を見つけづらいという生徒が増えていることは活用方法に問題があるのかもしれない。

## (4) 面接指導で利用して良かったか (%)

面接指導利用	H30年	H31年	R02年	R03年	R04年
とても良かった	28.4	35.4	35.6	40.3	41.0
良かった	62.5	57.6	57.5	54.3	53.7
良くなかった	7.8	6.2	4.3	3.9	3.8
全く良くなかった	1.3	0.8	2.6	1.5	1.6

## (5) 報告課題の理解が深まったか (%)

面接指導利用	H30年	H31年	R02年	R03年	R04年
とても深まった	25.7	32.0	31.0	34.0	35.0
深まった	63.2	56.9	59.5	57.6	56.7
深まらなかった	7.0	8.1	7.2	6.6	6.2
全く深まらない	4.1	2.2	2.3	1.7	2.0

## (6) 報告課題の視聴問題の量は (%)

面接指導利用	H30年	H31年	R02年	R03年	R04年
増やして欲しい	4.4	3.4	6.4	4.2	7.5
ちょうど良い	75.2	72.9	72.9	78.6	73.6
減らして欲しい	11.8	15.0	12.7	8.2	10.3
無くして欲しい	8.6	7.9	8.0	9.1	8.6

面接指導や報告課題は通信制の学習の柱でもあるが、NHK高校講座による学習は生徒にとっても有効であることが分かる。面接指導での利用に肯定的な意見が多く、報告課題でも学習の内容が深まり、視聴に対しての学習量も適切であると回答している。無くして欲しいという生徒が1割近くいるのは今後の課題であろう。

## (7) 「映像と文字で見る」は利用したか

面接指導利用	H30年	H31年	R02年	R03年	R04年
何度も利用した	22.4	26.1	33.9	35.0	41.5
少しは利用した	30.3	36.2	31.1	30.9	30.4
あまり利用しない	21.3	21.7	15.2	12.8	13.5
全く利用しない	18.0	15.8	19.8	21.3	14.6

## (8) 「学習メモ」は利用したか

面接指導利用	H30年	H31年	R02年	R03年	R04年
何度も利用した	8.8	9.4	12.2	7.4	11.8
少しは利用した	28.1	29.1	25.3	23.7	26.4
あまり利用しない	21.1	28.8	26.5	25.7	25.6
全く利用しない	40.4	32.5	36.1	43.2	36.2

## (9) 「理解度チェック」は利用したか

面接指導利用	H30年	H31年	R02年	R03年	R04年
何度も利用した	3.9	6.7	9.8	7.5	7.4
少しは利用した	21.3	21.5	20.9	17.2	18.0
あまり利用しない	28.9	30.3	25.3	23.4	29.8
全く利用しない	44.1	41.5	44.0	51.8	44.8

NHK高校講座は、現実問題としてリアルタイムでは視聴できない生徒が多い。このためホームページ上での活用がほとんどと思われる。視聴以外での活用を調べてはみたが、令和2年度はコロナ対応で活用を推し進めたため、学習メモ等での利用が高くなったようである。反動で令和3年度は利用率が下がったと考えられる。

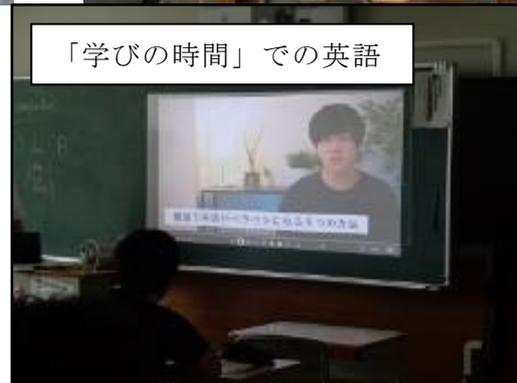
NHK高校講座を学習指導に活用して10年になる。生徒のアンケートで見ると、利用状況に大きな変化がないことは、NHK高校講座の学習への活用が十分に浸透していることの裏付けでもある。反面、視聴することが負担になる生徒も存在することから、報告課題への活用に関しては、今後も研究を進めてゆく必要があると思われる。

ICTの利活用では、ネットを使用した学習支援の必要性も考慮する必要があり、実際に利用を進めている学校もあるようである。教材のネット配信や報告課題の提出・添削を行えるシステムの構築は今後の課題であるが、生徒数が急増し、教員の負担が増えている現状では、ネットで配信する教材の作成に使える時間の捻出が難しくなっている。それなら、優れたコンテンツであるNHK高校講座を利用すれば良いというのが本校の考え方である。

## 5 面接指導での活用

理科の実験や芸術の実習など、限られた面接指導の中では行えないものをNHK高校講座で補うことができる。地理や日本史などでは動画としての教材を見せることで、自宅での復習や報告課題を進めるための自学自習用の補助教材にもなり得る。

英語での発音を聴く、体育での体の動かし方お知る、国語での朗読を聴く、数学での解き方を見直す、家庭科での実習を確認する、総合的な探究での探究方法を身につけるなど、すべての教科の面接指導で活用できる。



## 6 報告課題への視聴問題

コンテンツとして有効な教材なら、自宅学習でも力を発揮するはずである。報告課題に視聴して答える設問を入れたことで、必然的に視聴する習慣ができ、さらに報告課題の解答や提出が容易となり、学習効果が上がるという期待ができる。

ただし、本校の学習進度とNHK高校講座の放送の進度が合わないため、実際にはライブラリーを使用する事の方が多いようである。そのため、近年はスマホの利用が多いことを考慮して、必要な番組に飛べるようQRコードを作成し、報告課題に挿入するようにしている。

生物基礎

放送を視聴して答えましょう

.. (今回の学習内容に関わるNHK高校講座のQRコード)








.. 第1回目 ..... 2回目 ..... 3回目 ..... 4回目 ..... 5回目 ..... 6回目

..... ↑ 今回はここ

放送回  第3回目  「生命活動を支える代謝」

問1 放送中に示された”図式”をよく見て答えましょう。

① 「ヒト」と「大腸菌」の細胞の成分の中で、3番  
 目に多いのはそれぞれ何でしたか。両方答えよ。

② 「複雑な物質」を「単純な物質」に分解する反応  
 を何と言っていましたか。

... ③ 「ATP」が分解されると、何と何の物質が生じ  
 ると説明していましたか。2つとも答えよ。


問2 番組中に「食べる意味」を何度か説明していましたが、気づいたところでの「食べる  
 る意味」を2つ挙げてみましょう。(ヒント: 3つ言っていました)

### 情報 I

講座ライブラリー: 「社会と情報」: 第14回 (法律と個人の責任 考えよう著作権)



を視聴して次の問に答えよ。

(1) 次のものは著作権として保護されるか? ○か×で答えよ。

- ① 写真
- ② 緑川光の誕生日が書かれたメモ
- ③ 緑川光と書かれたカップのスケッチ
- ④ 総務省発行のデータ
- ⑤ 小説「羅生門」

①		②		③		④		⑤	
---	--	---	--	---	--	---	--	---	--

(2) 次のことは著作権法に違反することか。違反しなければ○か違反することは×で答えよ。

- ① インターネットの画像をプリントアウトして部屋に貼った
- ② 違法サイトで市販のCDのデータをダウンロードした
- ③ 学校の発表資料に人気キャラクターを許可を得ずに利用した
- ④ 自分のブログで記事の説明のため他人が採った写真を使用した

①		②		③		④	
---	--	---	--	---	--	---	--

(3) NHK 高校講座ライブラリー: 「社会と情報」: 第13回と第14回に出演している学悠館の先生は誰か  
フルネームで答えよ。

## 歴史総合

7 NHK高校講座 世界史 第25回 「産業革命と社会問題」を視聴して答えなさい。④



1,工場法だけでは子どもを守るといことはできなかつたのは、なぜですか。④

2,山下先生の話から、次の( )に入る言葉を入れなさい。④

オーウェンは、( )組合運動も積極的に推進しました。そういった運動は、( )を中心とした社会の実現を目指す( )主義という発想に、受け継がれていきます。

## 現代の国語

十一 視聴問題 ④

◎NHK高校講座 ライブラリー 国語総合第5回「ルリボシカミキリの青(一)」を視聴して次の設問に答えなさい。放送は最後までよく聴きましょう。④  
約20分間の放送です。 ※パソコンやスマートフォンがない人は放課後に学校のコンピュータ室で放送を視聴しましょう。  
やり方がわからない人は「現代の国語」担当・吉崎まで ④

問一 「文章の読み方の基本」(チャプター2)では、どのような説明がありましたか。空欄に当てはまる語句を書きなさい。④

文章の [ ] や、文章の [ ] どの組み立て方を意識しながら読み進めると、筆者の [ ] ができるとらえることができる。④

問二 「フェルメールの青」と、「ルリボシカミキリの青」について、放送ではどんな説明をしていますか。空欄に当てはまる語句を書きなさい。(チャプター4)

「フェルメールの青」は [ ] が作り出した青。④

「ルリボシカミキリの青」は [ ] が作り出した青。④

問三 (教P14・L11)「ちゃんと道<sup>ミチ</sup>を踏んでいる」という表現について、ここでいう「道」とはどのようなものと説明していますか。空欄に当てはまる語句を書きなさい。(チャプター5) ④

「道」を踏んでいる ④

= ④

その人の [ ] を [ ] していく道 ④

新教育課程科目の場合、NHK高校講座に番組がない場合がある。その場合は旧教育課程科目で対応している。例えば「情報Ⅰ」は「社会と情報」を視聴させる、「生物基礎」は旧教育課程で作成された番組を視聴させる、「現代の国語」では進度が合わないため、旧教育課程の「国語総合」をさせる、などである。

QRコードは係が1年分を一括して作成している。

## VI ICTの活用等

### 1 NHK高校講座を利用した放送教育のリモート学習の考え方

本校が放送教育としてNHK高校講座を取り入れた学習指導を始めた頃に「アクティブラーニング」という言葉が議論されていた。生徒の自主的な学習を進める意味も含む言葉ではあるが、自宅で報告課題を自学自習で行う通信制では、必然的に行ってきたとも考えられる。まさに本校ではNHK高校講座の視聴を行うことで、生徒が面接指導前に予習を行い、面接指導で視聴する学習方法を学び、自宅に帰って視聴を行いながら課題を仕上げることで、アクティブラーニングを実践していたと考えている。

生徒のアンケートでも、報告課題や面接指導での利用だけでなく、自学の場面で他の番組を視聴する事が増えているため、自学自習のコンテンツとして浸透していることが分かる。

### 2 学習に活用する教材に関する考え方

開講当初、自宅での学習を支えるためのコンテンツ作成が目標に掲げられていた。eラーニングの考え方であり、科目毎に作成した教材を自宅で利用できるようホームページにアップしたりリモートで配信したりしていた。

しかし、作成のための時間が十分に取れないことと、生徒の利活用が進まなかったため、eラーニングそのものが中止となってしまった。そこで、生徒が自宅での学習に活用しやすい教材を改めて探すこととなったが、そこで浮上したのがNHK高校講座である。通信制で学ぶ生徒のために作成されている高校講座であり、使用している教科書・学習書の内容に対応して制作されているため、優れた教材と位置付けることができ、何より教員の負担を減らせることが魅力であった。

そのため、NHK高校講座を使用することは必然の考え方であった。

### 3 本校のICT導入

(1) 栃木県の「ラーニングスキルアッププラン」により予算措置が行われ、面接指導で活用する機器を購入した。

- ① 書画カメラ・・・教材の提示用
- ② ロールスクリーン・・・黒板への表示用
- ③ 短焦点プロジェクター
- ④ ユーチューブのアカウント作成

(2) コロナ関連予算による機器の購入

- ① プロジェクターを使用しないテレビ型のモニター
- ② タブレット型PC

(3) 栃木県のICT推進事業による機器の導入

- ① 全教室で使用可能なWi-fi。
- ② 全教室に備え付けの電子黒板設置
- ③ 生徒一人一台のタブレット導入
- ④ 教員・生徒全員のTeamsのID配付

(4) 放送教育研究を受けて

- ① zoomのライセンス契約（1ライセンス）

### 3 ICT機器等の活用場面（リモート含む）

(1) 面接指導

- ① 「書画カメラ」により教科書や教材を提示する。

面接指導の時に、生徒が教科書のどの部分を説明されているのか分からないことが多いので、提示するだけでも効果がある。

家庭科の実習で、包丁の使用方法なども表示することができている。

- ② 「電子黒板」と板書の併用

電子黒板が備え付けで直接黒板に表示することも可能なので、表示機能と板書を併用して面接指導が行える。

## (2) 報告課題

- ①一人一台のタブレットは用意されているが、生徒へ配布した後、確実に返却されるか不安があるため、生徒に使用させてはいない。
- ②T e a m s の I D も、先行利用した学校でいじめが報告されたため、栃木県全体で使用中止となっている。
- ③NHK 高校講座を学習に取り入れたため、自宅でスマホやパソコンを使用して学習を進めている。

## (3) 特別活動

コロナウィルス感染防止のため、多くの行事をリモートで行った。ホームルーム教室でのリモート参加とし、教員に配付されたタブレットを教室に設置した。

令和3年度の主な行事について

- ①「始業式」「修業式」は年次毎の分散登校とし、校長の挨拶をユーチューブで配信した。
- ②「生徒総会」をz o o mで配信し、生徒はホームルーム教室で参加した。
- ③「生徒会役員選挙」の立会演説をz o o mで配信した。
- ④「レクリエーション」で、講師にz o o mで講話を頂いた。
- ⑤火曜生には、録画した内容をユーチューブで配信し教室で視聴した。

令和4年度には、ユーチューブでなくT e a m s で配信している。

## Ⅶ コロナウィルス感染対策への対応

令和2年度に4月・5月は生徒の登校禁止の措置がとられたが、通信制も例外でなく面接指導のための登校が禁止された。そのため生徒は面接指導を受けることなく報告課題を行わなければならない、学習不安をぬぐい去れない事態となった。そこで、NHK高校講座を視聴させることで生徒の学習不安を取り除くことを考えた。

以下に生徒への通知を引用する。

- 今年度に限り、休校期間中の出席について「NHK高校講座」の視聴をもって面接指導の出席とする。面接指導に対応する放送回を視聴させ、視聴票を提出させることで、その面接指導の出席の扱いとする。
  - ①学習指導要領「各種メディアを利用して面接指導を免除する」という規定を適用する。
  - ②免除できる時間数は「開講面接指導数の6/10まで」  
「最低出席時間数の6/10まで」とする。
  - ③NHK高校講座の放送のない科目については「指定する番組を視聴」と通知しているので、使用できる番組を指定する。
  - ④面接指導1単位時間数に対応する番組数（視聴票数）は担当者に任せる。

実際に提出された視聴票数は延べ5000通を超え、教員の負担は増加したが、生徒の学習への不安や出席に関する不安を充分に取り除く事ができた。そのため、年間を通した面接指導への出席割合や報告課題の提出割合は下がることはなく、最終的な単位修得率を上昇させることにもつながった。

## Ⅷ まとめと考察

本校では、NHK高校講座を学習に取り入れることを目標とし実践してきたが、10年を迎えようとする今、学習効果を実感しながら見えてきた課題もある。

### 【主な効果】

- ①スマホなどの利用により、場所や時間の制約を受けずに学習することができる。
- ②繰り返し視聴できるので、学習の振り返りや予習・復習への効果も期待できる。
- ③面接指導で行えない実験や観察、実習の代わりに使用できる。
- ④学校による授業等の動画配信の代わりに使用できる。

### 【課題】

- ①テレビやラジオのリアルタイム視聴が難しいため、スマホやパソコンからのホームページによる視聴なので、放送教育というよりeラーニングの方式に近い。
- ②優れたコンテンツなので、教員が教材を作成する手間を省くことができるが、生徒との繋がりが薄くならないかという不安要素が残る。
- ③学習意欲の低い生徒は視聴を嫌がるため、指導する教員の手間が増えている。
- ④学校が指定する番組を見つけづらい場合がある。
- ⑤QRコードを使用する場合に、ライブラリーが半年更新のため、番組がずれる事がある。

コロナ感染への対策が必要となった時に、放送視聴の効果を大きく実感したところである。教員である以上、生徒の学習に使用する教材やコンテンツは教員がつくるもの、という気持ちもある。しかし、通信制の生徒の学習を助けるためのNHK高校講座なので、教員が作成した教材と同等の効果があると考えても良いのではないだろうか。コロナ禍で授業の配信などが叫ばれていたが、実際に作成する手間や時間が足りないことを考慮すると、NHK高校講座を視聴することで通信制の面接指導の代わりに活用することは十分に考えられるであろう。

ICTの利用でも、GoogleClassなどを使用することも考えられる。この場合、教員全員が活用できるだけのスキルを身につけるための時間が乏しいため数名の教員だけに負担が偏り、さらに専門教員の異動により結局使用できないこともある。このような事態を想定するなら、全員が共通して使用できる放送教育に向かった方が現実的かもしれない。

実際に「学習意欲が高まった」「学習が楽しい」と答える生徒も増えているため、今後も効果のある使用法を研究してゆく必要性もあるだろう。